

<神が完成される>

ゼカリヤ4：6～9

私たちは社会に属して生きている。その社会を動かしているものは何か……。
強い力を持った組織や集団？ 能力の高い人たち？

神などおられない、神が二の次になっていたら……

神の前に膝をかがめて祈ることもなく、神に知恵を求めることもしない。
これは人の内に潜む高ぶり。神の光で照らされないと気づけない面。

【ゼカリヤ】

捕囚後、神殿再建の時期に神に仕えた預言者。

「この宮のこれから後の栄光は、先のものよりまさろう」と語った
預言者ハガイの2か月後にゼカリヤは働きを始める。

ハガイ ダリヨス王の第2年第6の月（ハガイ1：1）

ゼカリヤ ダリヨス王の第2年8の月（ゼカリヤ1：1）

【背景】

ペルシャ帝国の台頭によって、バビロンでの70年の捕囚生活から解放され民は、故郷に帰還が許され神殿再建を開始。しかし快く思わない近隣諸国の脅しや買収など、計画は妨害。士気が下がり忍耐力もそがれた民は、この使命から心が離れ始めた。その後、建設は18年間も中断。神殿再建の重要なミッションを率いる総督ゼルバベルが受けた心労は量りがたいものがあった。

「私の家が荒れ果てているのに、あなたがたはおのの自分の家の事だけに忙しくしている。」

ハガイ1：4

成功者は軍事力を誇った。

アッシリア帝国 < バビロン帝国 < ペルシャ帝国

権力あってこそ国が栄える。これが物事の常識。

目に見えない神より、目に見える力の方が説得力があった。

しかし神様を信じる人々は、その背後に神の御手がある事を知る！

「権力によらず、能力によらず、私の霊によって」という領域

<エズラ記 5 : 13 ~ 16>

クロスの第一年に、クロス王はこの神の宮を再建するように命令を下しました。クロス王はまた、ネブカデネザルがエルサレムの神殿から取って、バビロンの神殿に運んで来た神の宮の金、銀の器具を、バビロンの神殿から取り出し、自分が総督に任命したシェシュバツアルという名の者にそれを渡しました。そして、シェシュバツアルに、これらの器具を携えて行って、エルサレムの神殿に納め、神の宮をもとの所に再建せよと言いました。そこで、このシェシュバツアルは来て、エルサレムの神の宮の礎を据えました。

* シェシュバツアル = ゼルバベル

大いなる山よ。おまえは何者だ。ゼルバベルの前で平地となれ。彼は、『恵みあれ。これに恵みあれ』と叫びながら、かしら石を運び出そう。【7節】

「大いなる山」・・・立ちほだかる問題。行く手を阻む困難。権勢も能力も歯が立たない。一生自分の前に立ちほだかるように見える。しかし時が来たら情勢は変わる。

- ◆ 聖霊によって神の信頼が強められ「権力によらず、能力によらず、神の霊によって」大いなる山は動くという世界を知る。しかし、祈りが無い生活、神との交わりを持たずしてこの確信を得ることは難しい。

【橋本巽師のメッセージ】